

■ 建築学専攻

教育目標及び育成すべき人材

専攻主任教授 大橋 好光

1. 専攻の特色

建築学に係る分野は工学だけでなく、社会学・経済学・歴史学・生理学など多岐にわたる。特に近年の地球環境問題などに対応して、建築学として取り組むべき内容やスケールが広がっている。建築学専攻では、このような広範な事象を多面的に視野に入れることを前提として、専門知識とスキルを各自が修得することを目指す。すなわち、「建築計画」、「建築設計」、「住環境計画」、「建築構造学」、「建築材料工法」、「建築環境設備学」の6学科目のいずれかの学科目に学生は所属し、各学科目で専門知識を修得するが、一方では総合的に考え、常に自分の研究テーマの位置づけを認識し、社会が必要とする建築、あるいは望ましい都市像を意識することが重要であると考えている。持続可能な都市・建築を目指す基本的な思想と、これを実現する専門知識を持つ人材輩出および研究活動を専攻共通の目標としている。

「建築計画」：建築計画や建築史、建築設計について研究・教育を行う。

「建築設計」：建築家養成コースで、設計科目を中心に、日本建築学会賞受賞者等による建築家教育を行う。

「住環境計画」：住宅・住宅地計画、市街地整備、地域施設計画などについて研究・教育を行う。

「建築構造学」：建築構造、海洋構造、振動工学について研究・教育を行う。

「建築材料工法」：建築構法、建築生産、建築材料について研究・教育を行う。

「建築環境設備学」：温熱環境、空気環境、光環境について研究・教育を行う。

なお、本専攻は、一級建築士試験についての「開講科目が実務経験要件(1年または2年)を充たす大学院課程」として認められている。専門領域としては、意匠、構造、設備の3領域があり、所定の単位取得により専門領域意匠は実務経験年数1年または2年、専門領域構造と設備は実務経験年数1年が認定される。1年の認定がされた場合、大学院修了後、1年間以上の「設計・工事監理に必要な知識・能力を得られる実務」を経た上で、一級建築士受験資格を取得することができる。2年の認定がされた場合、大学院修了後すぐに受験資格を取得することができる。

2. 専攻のポリシー

ディプロマポリシー

幅広い教養と国際コミュニケーション能力を持ち、社会の発展に貢献でき、人間としての倫理をより高めることができる総合的な知識や応用能力を修得している。	建築の文化芸術的側面と工学的側面を多角的、総合的に理解し、工学全般に必要な基礎学力を修得している。	建築学の総合的な知識、専門的能力、および問題解決に向けての応用能力を修得し、建築家・建築技術者としての総合的な設計能力を修得している。	生涯にわたって学び続け、建築の文化、技術の発展に寄与し、社会の発展に貢献できる建築家・建築技術者としてのマネジメント能力、コミュニケーション能力を修得している。
---------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------

カリキュラムポリシー

文化・社会・環境などの教養や技術者倫理を修得し、国際的に活躍できる語学力と国際コミュニケーション能力を育成するための教育課程を編成する。	工学全般に共通する知識・能力(実行, 思考, 協働など)、ならびに、深い専門的知識・能力を修得するための教育課程を編成する。	建築家・建築技術者として仕事を遂行するための建築学の専門的能力と総合的な設計能力、実社会での課題を探究する問題発見・解決能力、ならびに、実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するため教育課程を編成する。	実務におけるマネジメント能力およびコミュニケーション能力を育成し、建築の専門家としての自己のキャリアを確立し、将来設計を高めるための教育課程を編成する。
A分類	B分類	C分類	D分類

3. 各区分の科目対応表

区分	科目名	必選	A分類	B分類	C分類	D分類
教養	技術英語演習Ⅰ	選択	○			○
教養	技術英語演習Ⅱ	選択	○			○
教養	英語プレゼンテーション技法	選択	○			○
教養	エネルギー環境工学特論	選択	○	○		
教養	研究の作法	選択	○			○
教養	インターンシップ	選択	○			○
教養	工学教養特別講義(安全学)	選択	○	○		
基礎	偏微分方程式論Ⅰ・Ⅱ	選択		○		
専門	建築生産特論	選択			○	○
専門	建築職能特論	選択	○		○	○
専門	建築実験特論	選択			○	
専門	建築設計特論Ⅲ・Ⅳ	選択			○	○
専門	住環境設計計画演習	選択			○	○
専門	特別講義(1)	選択			○	○
専門	設計インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ	選択			○	○
専門	建築史特論	選択			○	
専門	都市再生特論	選択			○	
専門	都市デザイン特論	選択			○	
専門	文化遺産保存・活用特論	選択			○	
専門	固体力学特論	選択			○	
専門	海洋構造特論	選択			○	
専門	建築振動工学特論Ⅰ・Ⅱ	選択			○	
専門	建築構造計画特論	選択			○	
専門	建築構法特論	選択			○	
専門	建築材料特論	選択			○	
専門	建築安全計画特論	選択			○	
専門	温熱環境学特論	選択			○	
専門	空気環境学特論	選択			○	
専門	光環境学特論	選択			○	
専門	建築設備学特論	選択			○	
専門	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ	必修			○	
専門	建築設計特論Ⅰ・Ⅱ	必修			○	○
専門	住環境設計特論Ⅰ・Ⅱ	必修			○	
専門	建築構造学特論Ⅰ・Ⅱ	必修			○	
専門	建築材料工法特論Ⅰ・Ⅱ	必修			○	
専門	建築環境設備学特論Ⅰ・Ⅱ	必修			○	
専門	各学科目文献研究	必修	○			○
専門	各学科目演習	必修	○			○
専門	特別研究	必修	○	○	○	○

学科目 研究内容

■建築計画 Planning in Architecture

勝又 英明

建築活動のすべての側面、即ち、建築プロジェクトの企画、計画、設計、竣工後の管理運営計画、改修計画の事象について建築計画の面から教育・研究を行う。研究分野は、劇場・ホールの建築計画・管理運営計画・改修計画、文化施設の建築計画、福祉施設の建築計画、木造文化財建造物、まちづくり、古民家の利活用等が中心となる。

■建築設計 Architectural Design

堀場 弘 / 手塚 貴晴

建築設計の領域を総合的に解明することを目的とする。

建築を必要とする環境、時代性、社会的背景を考察し、社会が必要とする建築をめざし、建築設計の実務にそくして、建築デザインプロセスを通してものづくり、ことづくりの心や感性を養い建築を総合的にとらえて、建築設計の方法について教育・研究を行う。

研究分野は、都市建築設計、建築の空間と表現、建築素材と空間の表現、建築設計業務に関する領域が中心となる。

■住環境計画 Planning of Housing and Urban Environment

天野 克也

住環境を総合的に計画する基礎的条件の解明を目的とし、次の教育・研究を行う。

住環境整備に関する内外の計画思潮、政策、およびこれまでに蓄積された学術的知見と計画事例のスタディを通して、住宅およびそれを取り巻く周辺環境を総合的に整備するための計画理論と技法について教育・研究を行う。子ども、青少年、成人、高齢者、障害者などあらゆる生活主体者の視点に立ち、都市住宅供給、住宅市街地整備、地域施設整備に関する計画条件とその実現化方策の総合的な解明を目的とする研究を行うとともに住環境計画のシステム化を図る。

■建築構造学 Architectural Structures

西村 功 / 大村 哲矢

建築構造の性能設計に関する基本的な考え方、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、合成構造、および基礎構造の設計と解析、地震や風に対する安全性、機能性、居住性の確保、地盤や流体との相互作用解析の役割、建築構造の新しい動向などについて教育・研究を行う。

研究分野

- | | | |
|-------------------|-----------------|----------------|
| 1. 各種構造の性能設計 | 2. 建築構造の耐震・耐風解析 | 3. 地盤連成・流体連成解析 |
| 4. 建築構造のヘルスマニタリング | 5. 免震・制震構造 | 6. 耐震診断・耐震補強 |

■建築材料工法 Building Materials, Construction and Production

大橋 好光 / 小見 康夫 / 佐藤 幸恵

建築の構法・生産・材料の問題を扱う。建築の各種構工法およびそれを構成する建築材料の特質、特徴を理解し、要求にあった建築を作るための問題点を検討する。特にストック社会に向けた建築の長寿命化・再利用・診断等に資する教育・研究を行う。

研究分野

- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| 1. 建築各種構法の特性の理解 | 2. 建築の生産に関わる課題の分析 |
| 3. 建築材料の品質の評価 | 4. 木質構造建築の性能評価 |
| 5. 構造体を構成する材料の診断・評価 | 6. スtock社会に向けた建築の長寿命化・再利用・診断等の手法 |

■建築環境設備学 Architectural Environment and Services

近藤 靖史 / 岩下 剛 / 小林 茂雄

人にとって建築内外の環境はどうあるべきか、建築環境システムにおける快適性、健康性、安全性、利便性、省エネ性を向上させるためにはどうすべきかといった建築環境設備に関わる理論や計画手法について教育・研究を行う。

研究分野

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1. 建築内外の温熱・空気環境の解析・評価・計画 | 2. 都市建物の色彩計画・照明計画 |
| 3. 生理心理学的観点からの温熱・空気・光環境問題の解明 | |

教育課程表 学科目及び必修科目

1. 必修科目は、表中の自分が所属する学科目の必修科目欄にある全授業科目とする。
2. 学科目に付随する科目(実験・演習等)及び特別研究は、授業時間外において指導教授の指導のもと行う。
3. 指導教授欄の*印は、研究指導補助教員である。

学 科 目	必 修 科 目	年次・単位数			指 導 教 授
		1年次	2年次	計	
建築計画	建築計画特論Ⅰ	2		2	教 授 勝又 英明
	建築計画特論Ⅱ	2		2	教 授 山口 勝己 *
建築設計	建築設計特論Ⅰ	2		2	教 授 堀場 弘
	建築設計特論Ⅱ	2		2	教 授 手塚 貴晴
住環境計画	住環境計画特論Ⅰ	2		2	教 授 天野 克也
	住環境計画特論Ⅱ	2		2	
建築構造学	建築構造学特論Ⅰ	2		2	教 授 西村 功
	建築構造学特論Ⅱ	2		2	准教授 大村 哲矢
建築材料工法	建築材料工法特論Ⅰ	2		2	教 授 大橋 好光
	建築材料工法特論Ⅱ	2		2	教 授 小見 康夫 准教授 佐藤 幸恵
建築環境設備学	建築環境設備学特論Ⅰ	2		2	教 授 近藤 靖史
	建築環境設備学特論Ⅱ	2		2	教 授 岩下 剛 教 授 小林 茂雄
各学科目共通	各学科目文献研究	2		2	各学科目担当教員
	各学科目演習	2		2	
	特別研究			8	

履修モデル

履修モデル：建築計画

建築計画、建築設計、住環境計画

工学研究基礎・教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
技術英語演習Ⅰ	建築計画特論Ⅰ	建築史特論	地域計画特論(都市)
技術英語演習Ⅱ	建築計画特論Ⅱ	都市再生特論	
英語プレゼンテーション技法	建築設計特論Ⅰ	都市デザイン特論	
研究の作法	建築設計特論Ⅱ	住環境設計計画演習	
インターンシップ	住環境計画特論Ⅰ	建築設計特論Ⅲ・Ⅳ	
	住環境計画特論Ⅱ	文化遺産保存・活用特論	
		特別講義(1)	
		建築職能特論	
		建築生産特論	
		建築実験特論	
		設計インターンシップ ^o Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	

履修モデル：建築構造

建築構造学

工学研究基礎・教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
技術英語演習Ⅰ	建築構造学特論Ⅰ	固体力学特論	鉄筋コンクリート工学特論
技術英語演習Ⅱ	建築構造学特論Ⅱ	建築振動工学特論Ⅰ・Ⅱ	構造力学特論
偏微分方程式論Ⅰ・Ⅱ		建築構造計画特論	地盤動力学特論
英語プレゼンテーション技法		建築構法特論	
研究の作法		建築材料特論	
インターンシップ		建築設計特論Ⅲ・Ⅳ	
		建築実験特論	
		建築生産特論	
		建築職能特論	

履修モデル

履修モデル：建築材料工法

建築材料工法

工学研究基礎・教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
技術英語演習Ⅰ	建築材料工法特論Ⅰ	建築構法特論	建設マネジメント特論
技術英語演習Ⅱ	建築材料工法特論Ⅱ	建築材料特論	建設情報システム特論
英語プレゼンテーション技法		建築生産特論	
研究の作法		建築職能特論	
インターンシップ		建築設計特論Ⅲ・Ⅳ	
		建築実験特論	
		建築構造計画特論	
		建築安全計画特論	

履修モデル：建築環境設備

建築環境設備学

工学研究基礎・教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
技術英語演習Ⅰ	建築環境設備学特論Ⅰ	温熱環境学特論	
技術英語演習Ⅱ	建築環境設備学特論Ⅱ	空気環境学特論	
英語プレゼンテーション技法		光環境学特論	
研究の作法		建築設備計画特論	
エネルギー環境工学特論		建築設計特論Ⅲ・Ⅳ	
インターンシップ		建築実験特論	
		建築生産特論	
		建築職能特論	